

書評

〔評者〕
北原光夫
農林中央金庫健康管理室
室長



〈『medicina』2011年増刊号〉 **内科 疾患 インストラクションガイド** 何をどう説明するか

B5判 頁672 2011年
定価 7,560円(本体 7,200円+税 5%)
[ISSN0025-7699]医学書院刊

2011年の『medicina』増刊号として、「内科 疾患 インストラクションガイド—何をどう説明するか」が発刊された。

「内科 疾患インストラクションガイド」(以下ガイド)は2つのセクションに分かれており、はじめのセクションは「患者にどう説明するか」とする4つの論文から成り立っており、次のセクションにはよく遭遇する内科的疾患が131、その他の疾患24と幅広く網羅されている。

「患者にどう説明するか」として書かれた4編の論文は、読みごたえのあるものとなっている。われわれ医療に携わる者にとって、コミュニケーションスキルの重要さは最近とみに高まっている。僅かなコミュニケーションの蹉跎で大きな問題へと発展することを見ることが稀ではない。また、ヘルス・リテラシーを考慮せずに、常に同じ調子の説明を行っても理解度に関心が出てしまうことも当然である。患者側からの信頼を得るためのセクションである。

続いて疾患のセクションに焦点を当ててみると、一定のフォーマットにしたがって記載されているのに気

がつく。

フォーマットによる構成は、「どのような病気でしょうか」、「どのような検査を受けるのでしょうか」、「どのような治療がありますか」、「日常生活ではどのような注意が必要ですか」、「急変した場合どうしたらよいでしょうか」の5項目からなっていて、まさに患者と患者家族が特に知りたいエッセンスが含まれている。さらに一口メモ的なメッセージがところどころに散りばめられている。これには予防的なメモも含まれておりユニークなセクションである。

内科の教科書に比べ、構成が当然異なるが、患者あるいは患者家族への対応という面を基本としたこのガイドは、『medicina』の読者、特に病院で診療に関わる医師にとっては有用である。また、医師がどのような説明を患者に行うかを知っておくべき看護師の目線に合うように平明に書かれているのもよいと思う。患者を紹介する実地医家が病院医と連携してゆくうえでも使用しやすいガイドとなっている。

うまくオーガナイズされた増刊号である。